

葉っぱでじゃんけん

園庭や公園にいくと様々な形の葉っぱが落ちています。丸い形、三角の形、星の形……。木の種類が違くと、葉っぱの形も変わってきます。「葉っぱでじゃんけん」は、葉っぱの形の違いを生かしたじゃんけんあそびです。みんなで色々な形の葉っぱを集めてじゃんけんしてみましよう。

◎準備

- 先生がグー、チョキ、パーの形をした葉っぱを探してみましょう。実際にどんな場所にどのような形の葉っぱが落ちているか、その親の木はどれかを探すなど、楽しみながら集めてみましょう。
- 行う時期は、落ち葉の多い秋が行いやすいですが、落ち葉があればいつでもできます。

◎あそびかた

- 1) 葉っぱでじゃんけんをするために、グー、チョキ、パーの形の葉っぱを集めましょう。
- 2) 集めた葉っぱを使ってグループごとや、1対1になってじゃんけんをします。
- 3) 最後に、どのような形があったか、グー、チョキ、パーごとに見せ合いましょう。

このあそびの対象

環境教育の視点

生き物



多様性



ねらい

- 木の種類によって葉っぱの形が異なることに気づく。
- 木には様々な種類があることに気づく。
- 比べながらを見つけることの楽しさを感じる。

年齢

3歳・4歳・5歳

季節

秋・冬

場所

園庭・公園

◎ふりかえり

- 葉っぱは、様々な形をしていて、グー、チョキ、パーの形に似ているものもあります。
- じゃんけんの形で、なかなか見つからない形はどれでしたか？
- おもしろい形の葉っぱには、どんなものがあつたでしょうか？

◎発展・応用

- グー、チョキ、パーだけでなく、色々な形を示して探してみましょう。
(例 ◇ ☆ △ など)
- 対象を葉っぱだけでなく、枝や石など自然物全体を対象にするのもよいでしょう。
- 集めた葉っぱを貼り絵などの製作に使ってもよいでしょう。



関連するあそび

葉っぱくらべ …… P.25

さいころ色あつめ … P.28

実施例

年齢 5歳児 人数 28人 季節 春 場所 公園

実施内容

- ◆当日の活動
- ① 3つのグループに分かれ、グー、チョキ、パーの形の葉を拾う。
 - ② 次に同じグループで緑、黄、茶の色の葉を拾う。
 - ③ 園に戻り葉を画用紙に広げ、色形を見合ったり、さわって感触を確かめた。
- ◆子どもの様子
- 手でじゃんけんの形を示しながら葉を拾う姿が多く見られた。黄色の葉でも、茶色の部分があること、葉脈のこと、桜の葉とタンポポの葉をさわり比べて違いを伝えると、感心する子どもの姿も見られた。
- ◆問題点・改善点
- 計画当初はじゃんけんだけの予定だったが、進める中で発見、展開でき、子どもも興味を持ったので、またあそびをかえて行いたい。

年齢 5歳児 人数 31人 季節 - 場所 園庭

実施内容

- ◆当日の活動
- ① 様々な種類の葉がある事を伝える。(グー、チョキ、パーの形の葉っぱをみせる)
 - ② グループで葉を探しに行く。
 - ③ 拾ってきた葉っぱを見せ合う。
 - ④ グループごとにじゃんけん大会をする。
- ◆子どもの様子
- 普段葉をじっくり観察する機会が意外となかったので、興味深く参加していた。
- ◆問題点・改善点
- グループごとのじゃんけん大会で待ち時間が長くなり子どもが飽きてしまった。

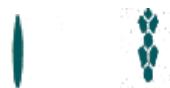
年齢 5歳児 人数 29人 季節 - 場所 園庭

実施内容

- ◆当日の活動
- ① 「じゃんけんぽん」で担任が葉を出す。「これはグー、チョキ、パーのどれだ？」
 - ② みんなでグー、チョキ、パーに見える葉集め。袋に紐をつけ園庭内で思い思いに集めてくる。
 - ③ グー、チョキ、パーと書いた模造紙に自分が一番自慢したい葉を置いて並べる。
 - ④ 模造紙を見ながら自分の葉っぱを自慢したり、葉っぱの形のおもしろさを自由に発言する。
 - ⑤ 担任やお友だちと葉っぱじゃんけん大会。
- ◆子どもの様子
- 「カエデの葉はグー、チョキ、パー全部出来るよ、だって手みたいだもん」「グーってむずかしい」といいながら丸まった葉を見つけてくる子もいるなど、友だちと会話を楽しみながら集めている様子が見られた。
- ◆問題点・改善点
- 子どもの目線が低いので、木の葉にも触れ合えるよう準備すべき。

コラム 葉っぱの種類

自然木には広葉樹と針葉樹の2種類があります。2つの違いは葉っぱの形。細い針のようなものやウロコのような形が針葉樹。それ以外が広葉樹。種類の多さでは広葉樹が圧倒的です。葉っぱの形を単純に分類すると7種類になります。広葉樹の葉っぱの形は4種類、針葉樹は2種類、どちらにも属さない特殊な形が1種類(イチヨウ)です。



葉っぱくらべ

ユリノキの葉っぱとカエデの葉っぱ、どちらも同じ「木」という種類なのに、大きさがまったく違います。同じ種類の葉っぱでも大きいものがあれば小さいものもあります。葉っぱの大きさや手触りを比べながら集めて、木々の種類の違い、生長の違いを感じてみましょう。

◎準備

- ・あらかじめ見本となる葉っぱを先生が拾っておきましょう。
- ・行う時期は、落ち葉の多い秋が行いやすいですが、落ち葉があればいつでもできます。

準備物：葉っぱを入れる袋、A4程度の大きさの白紙

◎あそびかた

- 1) 地面の落ち葉に注意を向けて、大小様々な葉っぱが落ちていることを伝えましょう。
- 2) あらかじめ見本として拾っておいた葉っぱを見せます。
- 3) 先生の葉っぱより大きな葉っぱを1枚探しましょうと伝えます。
- 4) 全員で拾ったら、見せ合って先生の葉っぱと比べてみましょう。



ユリノキの葉っぱ（左）と
カエデ（オオモミジ）の葉っぱ（右）

このあそびの対象

環境教育の視点

生き物



多様性



ねらい

- ・木の種類によって葉っぱの大きさ、形、手触りが異なることに気づく。
- ・木には様々な種類があることに気づく。
- ・比べながら見つけることの楽しさを感じる。

年齢

3歳・4歳・5歳

季節

秋・冬

場所

園庭・公園

◎ふりかえり

- ・葉っぱは、木の種類や生長具合によって大きさが違います。
- ・一番大きい葉っぱの親の木はどれだったのでしょうか？小さい葉っぱの親の木はどれだったのでしょうか？確認してみましょう。

◎発展・応用

- ・葉っぱの大きさだけではなく、手触りに視点を置いてあそぶこともできます。
- ・集めた葉っぱを紙に貼って自分の標本にすることもできます。
- ・葉っぱを名刺大のカードに貼るとかるたのカードにもなります。
- ・先生の葉っぱと比べるだけではなく、自分の手のひらよりも大きい葉っぱ、小さい葉っぱというように比べるやり方もあります。

◎留意点

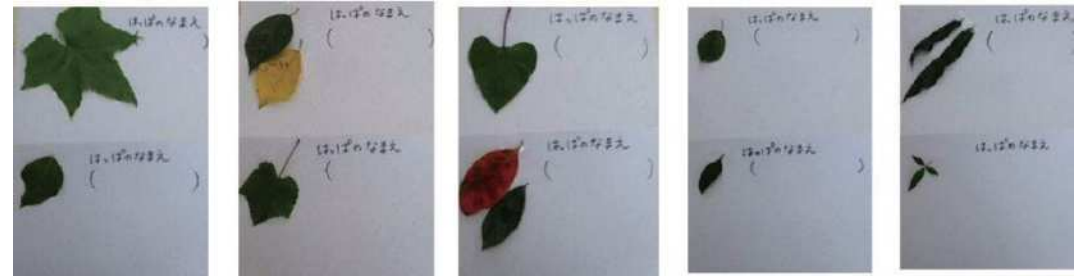
探す範囲として、先生の目の届く範囲を指定するようにしましょう。

実施例

関連するあそび

葉っぱでじゃんけん……P.23

さいころ色あつめ……P.28



年齢	4歳児	人数	16人	季節	秋	場所	園庭
----	-----	----	-----	----	---	----	----

実施内容

◆準備

- ・園内にある葉を事前に採取し、画用紙（八つ切り）1枚に1種類の葉を貼っておく。
- ・散歩用宝物入れポシェットを肩から下げて探せるようにしておく。

◆導入

- ・謎解き『保育園の中にある葉っぱを探せ！』をテーマに、10種類の葉を紹介する。
- ・1つ1つ、形、色、大きさ、匂い、を感じてもらう。
- ・それぞれの画用紙は壁に貼って、比べて見えるようにしておく。
- ・子どもから出た発見や感じたこと思ったことと言葉をひろって、子どもたちにその都度返していく。

◆当日の活動、子どもたちの様子

- ・10種類の葉を確認した後、宝物入れポシェットを下げて探しに行く。
- ・子どもたちは落ち葉を拾い、印象的だった葉の親木を探して回り、見つけると友だち数人と木々を見上げている。
- ・子どもたち同士で、この木の葉ではないのかと相談している姿が見られる。
- ・まだ葉を一つも見つけていない友だちに、葉のある親木を教えている児もいる。
- ・ある程度拾った様子を見て、テラスの窓に貼った画用紙に子どもたちが拾った葉を画用紙に貼れるように葉にセロハンテープをつける。
- ・子どもたちは見本の葉に自分の葉っぱを合わせてみたりして、同じだと思える葉を探している。
- ・同じだと思える葉にセロハンテープをつけてもらい、画用紙に自分の葉を貼る。

◆ふりかえり

- ・園内にはいろいろな植物があることが、子どもたちと一緒に確認できた。
- ・興味を持ってゲーム感覚で探すことができ楽しめた。
- ・普段なにげなく見ている木の葉をこの機会にじっくり観察することができ、植物の名前にも興味を持つことができた。
- ・同じ葉を見つけて貼るように促した時、色だけ見て違う種類の葉を同じと認識したり、大きさが同じだからと違う種類の葉を同じと認識したりしている姿があった。色や形など複合的に見て判断する難しさを感じた。見るポイントや違いはふりかえりで話をすることができた。



触って比べるあそび ～葉っぱあてクイズ～

年齢	4歳児	人数	34人	季節	—	場所	室内
----	-----	----	-----	----	---	----	----

実施内容

◆導入

手が入られるように穴を開けた箱の中に色々な身近なものを入れ、子どもたちに手触りで当てさせる。

◆当日の活動、子どもたちの様子

準備：葉を2枚ずつ何種類か用意し、1枚を大きな紙に並べ、同じ種類のもう1枚を順に箱に入れられるようにする。

①箱の中に1枚葉を入れ、手を入れて手触りで並べた葉の中から同じと思われる葉を選ぶ。

②箱から葉を取り出し、合っているかどうかみんなで確かめ合う。

最初はハサミ、ホッチキス、鉛筆などの身近な道具で試した。手触りだけで当てる楽しさに、次々やりたい子が出てきた。1枚ずつ大きな紙に貼って名前も書いておくと、「これ〇〇の葉っぱだって」と興味を示す子がいた。ぼくもわたしもとみんなやりたくて順番に出てきて、葉っぱを当てっこして楽しんだ。当たるととても嬉しそうだった。よく葉っぱを触って楽しんでいた。

葉っぱの素材を活かした製作 ～葉っぱにお絵描き～

年齢	4歳児	人数	30人	季節	—	場所	室内
----	-----	----	-----	----	---	----	----

実施内容

◆当日の活動、子どもたちの様子

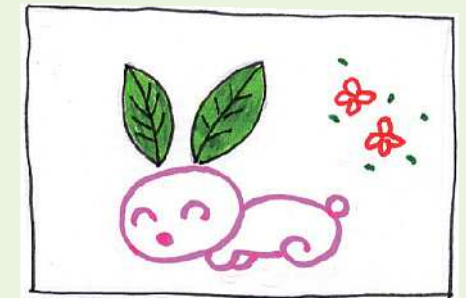
①好きな葉を選び画用紙に自由に貼る。

②画用紙を縦横に動かしながら葉をじっくりと見てイメージを膨らませる。

③クレヨンで描く。

④グループごとに何を描いたか発表する。

- ・考えていたより子どもの想像力の豊かさに驚いた。
- ・友だちの発表にも興味を持っていた。



コラム 葉っぱの偉大な力

木の葉は、太陽から光のエネルギーを吸収して光合成することで、無機物である水と二酸化炭素から酸素と炭水化物という有機物をつくりだします。地球上で有機物をつくる役割を担っているのは、葉っぱと一部の藻や細菌だけです。これら以外の生きものは、この葉っぱがつくりだしたエネルギーをもとに「食う-食われる」の関係でつながって生きることができるのです。葉っぱがないと私たち他の生きものは、生きていけないのです。



さいころ色あつめ

自然界には様々な色が存在しています。葉っぱにも緑、茶、黄、赤などがあり、木の枝も濃い茶色、赤っぽいものなど様々です。こうした自然の中にある「色」に注目して、「色」の美しさ、不思議さに気づくあそびです。

◎準備

園庭ではどのような色を見ることができるかをあらかじめ確認しておきましょう。

準備物：6面に色が塗られた「さいころ」（付録P.69）、模造紙程度の大きさの白い紙

◎あそびかた

- 1) 園庭の葉っぱや落ち葉など自然には、様々な色があることを伝えます。
- 2) さいころをふって出た色と同じ色の木の葉や枝、木の実など自然のものを探して持ってくるように伝えます。持ってこられないものはその場所を覚えておくように伝えます。
- 3) さいころをふります。子どもたちは、出た色の自然物を探します。
- 4) 集めた自然物を白い紙の上に並べて確認しましょう。持ってこられなかった自然物を見つけた人の場所へも行きます。

◎ふりかえり

- ・見つけた色にはどのような色があったか確認します。
- ・なぜ自然には色があるのか考えてみましょう。

(花の色は虫をよぶ色。紅葉や季節の話などしてもよいでしょう。)



このあそびの対象

生き物



環境教育の視点

多様性・
つながり



ねらい

- ・自然界には様々な色が存在することに気づく。
- ・自然の色を探す楽しさを感じる。

年齢

3歳・4歳・5歳

季節

秋・冬

場所

園庭・公園

◎発展・応用

- ・さいころのかわりに、色カードを使うのもよいでしょう。
- ・同じ色でも濃淡があるので、薄い色から濃い色まで順番に並べてグラデーションをつくってみましょう。
- ・季節ごとに園庭の色リストをつくってみましょう。



葉っぱのグラデーション

コラム 昆虫と花の関係① ～花の色～

花の色が美しいのは、人の目を楽しませるためではなく、花の受粉を仲介する昆虫を誘い寄せるためです。こうした花を「虫媒花(ちゅうばいか)」といい、魅惑的な花の色と蜜で昆虫を誘います。

昆虫たちにはそれぞれ好きな色があるので、モンシロチョウは青、紫、黄色を好み、アゲハは赤、ミツバチは白や黄色に強くひきつけられています。このように特定の花と昆虫の間には、色を通した関係が築かれています。ちなみに花の色の割合は、黄色と白が約6割、赤とピンクが約2割を占めて、その他の色として紫、スミレ色、青色などがあります。

関連するあそび

葉っぱでじゃんけん..... P.23

葉っぱくらべ..... P.25

草花であそぼう

オオバコの相撲やレンゲの冠などは、草花あそびの王道といってもよいくらいポピュラーなものです。こうした草花のあそびを通して、丈夫さや弱さ、大きさなどの植物の特徴を知ることができます。公園や園庭の野原で草花を見つけたら、取り組んでみたいあそびです。

◎春のあそびかた

サクラの花吹雪

サクラの花びらを袋に集め、友だちとかけあっこする。



シロツメクサの首飾り

【つなぎ方1】

結んで長くしていく。

【つなぎ方2】

切り込みを入れ、通していく。



このあそびの対象

環境教育の視点

生き物



多様性



ねらい

- 草花の姿や形のもつ美しさ、不思議さを感じる。
- 草花のやわらかさや丈夫さなど手ざわりを通して感じる。
- 植物を使ってつくる楽しさを感じる。

年齢

4歳・5歳

季節

春・夏・秋・冬

場所

園庭・公園

タンポポの髪飾り・指輪・首飾り

茎の先に切れ込みを入れる。



水の中に入れると切った部分がそりかえり、髪にさすとほどよく引っかかる。



【首飾り】

3本を芯にする。シロツメクサの首飾りと同様につなぎていく。

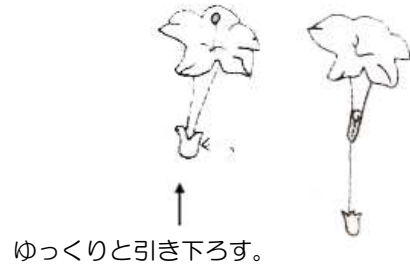
二つに割いた茎を指や腕に巻きつけて結ぶ。

草花であそぼう

◎夏のアソビかた

オシロイバナのパラシュート

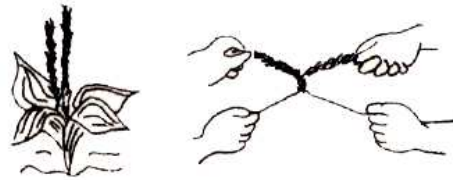
高いところから投げると花のパラシュートになる。



◎秋のアソビかた

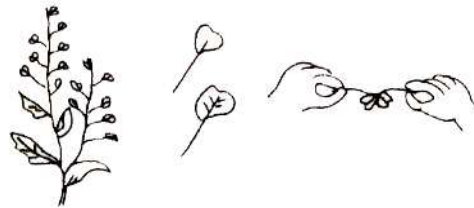
オオバコ相撲

ひっぱりっこして相手の茎を切った方が勝ち。

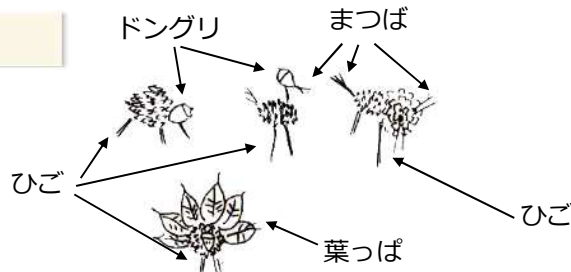


ナズナの三味線

種実を2つとり、耳のそばで弾き合わせると、小さくペンペンと音がする。

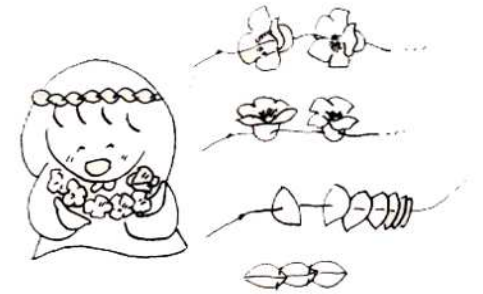


まつぼっくりの動物人形



◎冬のアソビかた

ツバキの花飾り



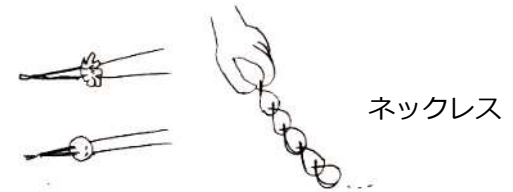
ツバキの笛

丸く巻いて、平らにして吹く。



マツのかんざし・ネックレス

花かんざし
なんてんかんざし



2つからめて引っ張りっこ



相撲